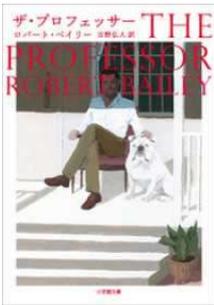


前期の図書委員さんによるお勧め本の紹介です。5月にたくさん新しく本が入りました。図書室に来て是非読んで下さい。昼休みと放課後は開館しています。☆印は図書室にある本という意味です。

☆		<p>「探偵ガリレオ」東野圭吾</p> <p>警視庁捜査一課の草薙とその友人の天才科学者、湯川の二人が説明のつかない難事件に挑む。この本の面白いところは、時系列の構成です。ある時は犯人側から、またある時は刑事側からというように、描かれる視点がくるくると変わっていきます。そこが面白いです。ガリレオシリーズ第一弾をぜひ読んでみてください。</p> <p>3年3組 K君</p>
☆		<p>「流浪の月」 風良ゆう</p> <p>「流浪の月」は2022年5月に映画化されました。公園で更紗は文に出会います。更紗は声をかけてくれた文の家に行くこととなります。文と2か月間特別な時間を過ごしていました。湖で二人で遊んでいたら、警察に通報され、文は誘拐犯として逮捕されました。それから15年が過ぎて、二人はもう一度出会います。最後はとても切ない気持ちになります。皆さんもぜひ読んでみてくださいね。</p> <p>1年4組 Nさん</p>
☆		<p>「新世紀エヴァンゲリオン」 貞本義行</p> <p>劇場版を見てから読みました。とても面白かったです。劇場版には出てこないエピソードがあったり、キャラクターの性格やセリフも少し違って、TVアニメや劇場版しか見ていない人はぜひ読んでみてください。結末も違うので、最後まで楽しんで読めると思います。図書室にシリーズであります。</p> <p>1年2組 K君</p>
☆		<p>「白い雨」 赤川次郎</p> <p>とあるN大のワンダーフォーゲル部の奥多摩へのキャンプ中、白いミルクのようにかすかに光る雨が降っていた。その雨に打たれた部員の今井にはとある変化が。日頃の思いが爆発し、山中で二人の部員に手をかけてしまう今井。山麓の町でも白い雨に打たれる人が続々と悪行を起こしていく。この白い雨は何なのか？白い雨に打たれた人を殺人に導くホラー小説です。</p> <p>1年1組 O君</p>
☆		<p>「ユーキャンの乙種危険物取扱者第1, 2, 3, 5, 6速習レッスン」</p> <p>各類の危険物の性状をわかりやすく掲載していて、暗記の時に助かる一覧表や語呂合わせなど覚えやすい工夫がされています。さらに、重要なポイントを絞り込んだ内容と、わかりやすい解説があるので、とても理解しやすいです。練習問題も類ごとにあり、知識の定着度をチェックできます。ぜひ活用して下さい。</p> <p>2年4組 Y君</p>

<p>☆</p>		<p>「ザ・プロフェッサー」 リバート・ベイリー</p> <p>トムはアラバマ大学のロースクールで教えている。多くの生徒を教え、裁判官にしてきた。ボーもその中の一人だ。困ったらいつでも駆けつけてくれる。</p> <p>トムは友人と思っていたタイラーに裏切られ、大学を辞めることになる。偽りの容疑で諮問委員会にかけられた。ガンもそのタイミングで見つかる。今は逃げるようにして、片田舎にいる。友人に頼まれていた裁判は、人に頼んできた。トレーラーにぶつけられて、夫婦と娘を失った件。しかし、本人の意思に反して、表舞台に出ていく運命だった。彼の裁判で見せる力量は素晴らしかった。このあたりが読んでいてクライマックスだ。裁判の中で、探している証人が間に合うのかどうか、ハラハラする。</p> <p style="text-align: right;">図書部</p>
<p>☆</p>		<p>「震災後の不思議な話」 宇田川敬介</p> <p>1年生の英語の本文で、「三陸鉄道は復興のシンボルだ」という文がありました。ここでは震災後のたくさんの不思議な話が語られる。例えば、「水中でもがいていると、何本かの人の手が出てきた。その手たちが、繁さんを押し上げてくれて助かった。その時、子供の笑い声も聞こえた。」というような話だ。他にも「チョコレートに分け合って食べていたら、光の玉が見えた。その中で暖かくて、気持ちよくなって、眠ってしまった。本当なら、低体温症で全員が死ぬところを、マッチ売りの少女のように哀れに思った神様が、頑張らせて後押しして生かしてくれたのかな。」カキの養殖業者が、「もっと沖の方だ。」「そう。ここだ。」という声に導かれて養殖いかだを下した。その声は仲間の漁師の三浦さんだった。カキのロープを引き上げたとき、別のロープがついていて、そこには亡くなった三浦さんの腕時計があった。その声は後に何度もよい漁場を教えてくれたという。興味を持った人は読んでみてください。</p> <p style="text-align: right;">図書部</p>
<p>☆</p>		<p>「ラブカは静かに弓を持つ」 安壇美緒</p> <p>橘は自分でいうところの根暗で、一人であることが好き。友人らしき人もいない。仕事はするけれど、熱意があるほどではない。夜眠れないので、神経科に通い、睡眠薬を処方されている。昼間眠気が襲うことが多い。全日本音楽著作権連盟（全著連）で働いている。広報部から資料部へ移動になり、上司から頼まれた仕事はスパイ活動。チェロが弾けるという情報を知った上司は世界最大の楽器メーカーのミカサに潜入し、著作権の使用料を払わずに、レッスンで曲を使用している証拠集めを命じた。橘はレッスンのたびに、ペン型の録音機を操作することになる。担当講師は浅葉先生。</p> <p>橘はレッスンにのめり込んでいった。5歳から始めたチェロ。弾くうちに感覚も戻るし、浅葉先生が聞かせてくれる演奏には深みやストーリーが見えた。音を感じる感性が鋭いかもしれない。週末練習にも打ち込んだ。そしてコンサートで弾く曲選びを先生に任せた。選ばれた曲は「戦慄きのラブカ」。孤独な男が潜入先の敵国で自分の居場所を見つける映画の挿入歌だった。ラブカとは醜い顔をした深海魚。まさしく橘の立場そのもの？ 先が気になり、夢中で読んでしまう本です。</p> <p style="text-align: right;">図書部</p>